

## 方言談話における対称詞と指示詞系フィラー —大分県の談話を中心に—

関西大学ほか 山本空

### 1. はじめに

本発表では(1)<sup>1</sup>にみられるような、独立語的な対称詞と指示詞系フィラー「アノ」「ソノ」を比較し、それらの関連性を分析する。(1)は、国立国語研究所編『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成』(以下『ことば集成』)に収録されている談話である。

- (1) B: モー イマー アンタ イエデ センカラ モー ミナ デアイジャーカラナ  
ー。(もう 今は あなた 家で [結婚式を] しないから もう みんな 出  
会い [=外で行うこと] だからね。)

(1978 年大分県大分郡挾間町の談話・60 代女性・『ことば集成』収録)

発表者はこれまで、方言談話にあらわれる文中にかかり先のない独立語的な対称詞(独立用法の対称詞)を分析してきた。山本(2014・2016)では、独立用法の対称詞は西日本において使用されやすいことを述べた。そして独立用法の対称詞が出現するとき、(2)のようにその前後にフィラーが使用されていることがあることも山本(2021)で指摘した。

- (2) A: ホデ、 ウワ マ イマー アンタ、 (B フン フン) ソノ カイスイキ°  
ノ ハナシカ° デキタケド (B フン フン {咳}) ワシラモ ウミ イ  
クー ユタラー アノ、 ロクシャクフンドッシャ。(それで、 うわ(=言い  
淀 み) ま 今、 あなた、 (B ふん ふん) その、 海水着の 話が  
出[て] 来たけど (B ふん ふん {咳}) 私たちも 海[へ] 行く [と]  
いったら あの、 六尺禪だ。)

(1985 年兵庫県相生市の談話・70 代男性・『ことば集成』収録)

本発表でいう独立用法の対称詞について大分県の談話を分析した松田(2015)は、このような対称詞は「フィラー的使用」されていると述べている。山本(2014)でも独立用法の対称詞の周辺にあらわれる要素と発話のどの部分にあらわれるかを分析した結果、独立用法の対称詞はフィラー的な特徴を持っており、発話権交替にかかわる談話機能を持っているのではないかと述べた。しかし、フィラーといってもその種類は多くあり、具体的にどのフィラーと機能が近いのかといったことはあまり議論されていない。独立用法の対称詞がフィラー的に使用されているのであれば、ほかのフィラーと比較・分析し、その機能や使用実態を明らかにする必要がある。また、各地点でどのようなフィラーが使用されているかも明らかにしたい。そこで本発表では方言談話を用いて使用されている指示詞系フィラー「アノ」「ソノ」と独立用法の対称詞を分析し、その特徴を調べる。そして今回分析した地点の中から、独立用法の対称詞の存在が複数の先行研究において指摘されている大分県の談話に着目し、談話資料を追加して分析する。

<sup>1</sup> 用例は読みやすさを考慮して表記、記号を一部変更している。下線、太字は発表者によるものである。

## 2. 分析資料と分析方法

指示詞系フィルター「アノ」「ソノ」の収集には国立国語研究所『日本語諸方言コーパス』「COJADS」(以下「COJADS」)を用いた。「COJADS」は文化庁が1977～1985年に行った「各地方言収集緊急調査」によって収録された談話データを収録している。また、独立用法の対称詞の収集と談話全体の確認には『ことば集成』を用いた。先述の通り「COJADS」の談話データは「各地方言収集緊急調査」によって収録されたものだが、その一部が『ことば集成』として刊行されている。本発表ではフィルターがあらわれる周辺だけでなく談話全体も分析するために、『ことば集成』にも「COJADS」にも収録されている談話データの部分を使用する。調査対象地点は岩手県遠野市・東京都台東区・兵庫県相生市・奈良県五條市・山口県豊浦郡豊北町・佐賀県佐賀市・大分県大分郡挾間町である。なお、以下では便宜上各都県名のみで呼称する。また、大分県に関しては松田・糸井(1997)、松田・日高(1997)に収録されている大分県老年層の自由会話も分析する。調査方法としては、上記の分析資料から収集した「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」を地点別に出現数を整理したうえで、その機能を分類した。機能は岩田(2014)の分類を参考にして、「割り込み」「言い淀み」「埋め草」の3つに分類した。「割り込み」とはある話者が話しているときに、別の話者が割り込んできた場合をさす。話し手の意見等に反論する場合、話し手の発話を遮った場合などがこれに該当する。岩田(2014)でいう「①呼びかけ」「②談話への割り込み」、「③話題転換」、「④訂正、つつこみ、たしなめ等」が該当する。

### (3) [Aは婚礼時の新郎新婦入場の思い出を話している]

A: ソーステッガラ ナニガ スッテ ソシテ ヘアーツタンダカ° オラ ッシャネー。オレア ハー オンモデガラ ヘアーツタスナー、ヌワガラ ヘアタツケナー。(そうしてから なにか して そして 入ったもんだか 私は 知らない。私は もう 表から 入ったしな、庭から 入ったな。)

B: アノー、ゴシューキ° ノ チューnジャサマ(あの ご祝儀の 中座様[というのは])

A: ウン(うん)

B: ナガナガ モンク ヨグ シャnベンダツケモナ。(なかなか 口上[を] よく 話すのだったものな。) (岩手・男性B・アノ・割り込み)

「言い淀み」とは、言いたいことがあるにもかかわらずそれが出てこない、もしくは発言がはばかれる内容で言い方を考慮しなければならず、より良い言い方を探しているときに用いられる機能である。岩田(2014)でいう「⑤言い淀み」「⑥言葉探し」が該当する。

(4) A: ニホンノ ロクジューヨシューノ クニク° ニノ エー ソノ イーツタエカ° ナンカデ カタチニ ノコツタンダロー ト オモーンダヨネ。(日本の 60 余州の 国々の えー その 言い伝えが 何かで 形に 残ったんだろう と 思うんだよね。) (東京・男性A・ソノ・言い淀み)

「埋め草」は特に大きな機能がなく、ただ会話をつなぐために使用される用例である。岩

田(2014)は分析対象に書き言葉の会話文を用いることでこれに該当する用例を排除しているため、該当する分類はない。

(5) B: モー イマー アンタ イエデ センカラ モー ミナ デアイジャーカラナー。(もう 今は あなた 家で [結婚式を] しないから もう みんな 出  
会い [=外で行うこと] だからね。)

(大分・女性B・独立用法の対称詞・埋め草) = (1)

このような分類をし、どのフィラーが用いられやすいか、また、どの機能が多く用いられているかを分析する。

### 3. 分析結果

#### 3.1 「COJADS」『ことば集成』の分析結果

各地点のフィラー「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」の出現数を表1にまとめた。なお、( )内の数値はその地点での「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」の割合である。

表1 各地点にみられる「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」

地点	収録時間	アノフィラー	ソノフィラー	対称詞	合計
岩手	46分52秒	91 (66.4)	46 (33.6)	—	137 (100)
東京	34分51秒	60 (80.0)	13 (17.3)	2 (2.7)	75 (100)
兵庫	30分30秒	108 (46.8)	108 (46.8)	15 (6.5)	231 (100)
奈良	33分39秒	96 (71.6)	37 (27.6)	1 (0.7)	134 (100)
山口	37分09秒	128 (62.4)	56 (27.3)	21 (10.2)	205 (100)
佐賀	20分53秒	19 (67.9)	4 (14.3)	5 (17.9)	28 (100)
大分	20分58秒	31 (31.6)	9 (9.2)	58 (59.2)	98 (100)

まず「アノ」と「ソノ」の出現数について述べる。7地点中6地点は「ソノ」よりも「アノ」の用例が多かった。テレビ番組の談話を分析した堤(2012)においても「ソノ」より「アノ」が使用されやすいとあるので、この6地点は先行研究通りといえる。兵庫県のみ「アノ」と「ソノ」の用例数が同等で、しかも多数使用されていた。そして独立用法の対称詞は、岩手県では用例がみられず、東京都でも2例のみであった。西日本においても奈良県が1例、佐賀県が5例と少なかった。兵庫県・山口県・大分県は独立用法の対称詞が一定数あらわれ、特に大分県は58例で最も多く、割合は59.2%であった。大分県では独立用法の対称詞が他のフィラーよりも多く使用されているということになる。それぞれの機能を分類

した結果を表 2 に示す。( )内の数値はその地点での機能の割合である。

表 2 各地点の「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」の機能

地点	アノ				ソノ				対称詞			
	割り込み	言い淀み	埋め草	合計	割り込み	言い淀み	埋め草	合計	割り込み	言い淀み	埋め草	合計
岩手	5 (5.5)	29 (31.9)	57 (62.6)	91 (100)	2 (4.3)	16 (34.8)	28 (60.9)	46 (100)	—	—	—	—
東京	3 (5.0)	44 (73.3)	13 (21.7)	60 (100)	—	13 (100)	—	13 (100)	—	—	2 (100)	2 (100)
兵庫	1 (0.9)	54 (50.0)	53 (49.1)	108 (100)	4 (3.7)	50 (46.3)	54 (50.0)	108 (100)	1 (6.7)	1 (6.7)	13 (86.7)	15 (100)
奈良	—	39 (40.6)	57 (59.4)	96 (100)	—	17 (45.9)	20 (54.1)	37 (100)	—	—	1 (100)	1 (100)
山口	4 (3.1)	41 (32.0)	83 (64.8)	128 (100)	—	26 (46.4)	30 (53.6)	56 (100)	—	6 (28.6)	15 (71.4)	21 (100)
佐賀	2 (10.5)	10 (52.6)	7 (36.8)	19 (100)	—	—	4 (100)	4 (100)	—	—	5 (100)	5 (100)
大分	1 (3.2)	24 (77.4)	6 (19.4)	31 (100)	—	4 (44.4)	5 (55.6)	9 (100)	3 (5.2)	6 (10.3)	49 (84.5)	58 (100)

「アノ」に関しては、奈良県を除く 6 地点ですべての機能に用例が見られた。岩田(2014)では「アノ」は「ソノ」よりも多くの機能を持ち汎用的に用いられていることが示されている。表 2 の結果もそれを表しているといえる。

「ソノ」に関しては「アノ」よりも機能の使われ方が限定的である地点が多かった。特に注目すべき点は「言い淀み」であろう。標準語圏である東京都では 13 例全てが「言い淀み」であった。ほかの地点も「埋め草」と同程度使用されていた。岩田(2014)の分類でも、「ソノ」の機能は「言い淀み」と「言葉探し」に限定されている。つまり「ソノ」は「アノ」に比べて使用される状況が限定されるということである。その中で「割り込み」で「ソノ」を用いていたのは岩手県と兵庫県である。特に兵庫県は 4 例あらわれている。「ソノ」全体の用例数も多いことから、兵庫県では「ソノ」は「アノ」と同等の汎用性を持つと考えられる。

独立用法の対称詞に関しては、その機能のほとんどは「埋め草」であった。その中で、大分県は比較的「割り込み」「言い淀み」にも用例が見られた。大分県は、同じ独立用法の対称詞を使用する地点でも特にそれらの使用が浸透しており、大分県における独立用法の対称詞は、すでに対称詞の枠から離れ、フィラーとして確立していると考えられる。

### 3.2 松田・糸井(1997)、松田・日高(1997)の分析結果

松田・糸井(1997)、松田・日高(1997)に収録されている大分県各地の談話資料における調査結果は表 3、表 4<sup>2</sup>のとおりである。

<sup>2</sup> 実際には松田・糸井(1997)、松田・日高(1997)ともに 12 地点分の談話資料を使用しているが、紙幅の都合上それぞれの総数のみを表として挙げる。

表3 大分県にみられる「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」

資料名	アノ	ソノ	対称詞	合計
松田・糸井(1997)	24 (18.6)	24 (18.6)	81 (62.8)	129 (100)
松田・日高(1997)	66 (28.6)	21 (9.1)	144 (62.3)	231 (100)

表4 大分県における「アノ」「ソノ」「独立用法の対称詞」の機能

資料名	アノ				ソノ				対称詞			
	割り込み	言い淀み	埋め草	合計	割り込み	言い淀み	埋め草	合計	割り込み	言い淀み	埋め草	合計
松田・糸井(1997)	3 (12.5)	17 (70.8)	4 (16.7)	24 (100)	—	18 (75.0)	6 (25.0)	24 (100)	2 (2.5)	6 (7.4)	73 (90.1)	81 (100)
松田・日高(1997)	2 (3.0)	54 (81.8)	10 (15.2)	66 (100)	—	15 (71.4)	6 (28.6)	21 (100)	5 (3.5)	9 (6.3)	130 (90.3)	144 (100)

表3をみると、松田・糸井(1997)、松田・日高(1997)ともに「アノ」「ソノ」よりも独立用法の対称詞が多くあらわれている。『ことば集成』と同じく、指示詞系フィラーよりも独立用法の対称詞が多用されているという結果になった。また、表4をみると、「アノ」はすべての機能に用例があり、「言い淀み」の用例が最も多いこと、「ソノ」に「割り込み」の用例がないこと、独立用法の対称詞はすべての機能に用例があり、「埋め草」の用例が最も多いことがわかる。これは『ことば集成』の大分県の談話でみられた特徴と合致するものである。これは、大分県において独立用法の対称詞が指示詞系フィラーよりも汎用的なフィラーであることを示していると考えられる。

#### 4. 考察

以上、方言談話資料を用いて独立用法の対称詞と指示詞系フィラー「アノ」「ソノ」を分析した。標準語を分析対象とした堤(2012)等の先行研究では「ソノ」より「アノ」が使われやすいとしているものが多く、本発表の分析でも多くの地点が同様の傾向を示したが、兵庫県は「アノ」と「ソノ」の用例数が同数あられ、「ソノ」の談話機能も比較的汎用性が高かった。そして、兵庫県では「ソノ」がどのような場面で用いられるかという発話権が奪われそうな場面であった。ここから、兵庫県においては話者同士が発話権を奪い合うような談話では「ソノ」の使用が上昇すると考えられた。大分県は指示詞系フィラーよりも独立用法の対称詞を多用していた。また、発話権を奪い合うような場面では独立用法の対称詞を使用していた。大分県は、同じ独立用法の対称詞を使用する地点でも特にそれらの使用が浸透しており、その結果指示詞系フィラーよりも使用されているのではないだろうか。2018年に大分県で発表者が実施した独立用法の対称詞に関する言語意識調

査<sup>3</sup>では、被調査者は「普段からよく使用する」と回答している。同じ調査を兵庫県<sup>4</sup>でも実施したが、独立用法の対称詞を多用しているにもかかわらず「自分は使用しないが他者がよく使用している」という意識の話者も多かった。話者の意識の点においても、大分県は独立用法の対称詞が浸透していると考えられる。

## 5. おわりに

本発表では方言談話にみられる指示詞系フィラー「アノ」「ソノ」と独立用法の対称詞を比較することでフィラーの用いられ方の差異を分析した。先行研究で明らかにされている、いわゆる標準語的なフィラーの使用とは異なった使用をする地点と、独立用法の対称詞を多用する地点は共通していた。ここから、独立用法の対称詞は単にその地点に存在するだけでなく、ほかのフィラーの使用にも影響を与えていることが考えられた。

## 参考文献・参考 URL

- 岩田一成(2014)「指示詞から感動詞へ—アノ(一)・ソノ(一)について—」『山口国文』37  
国立国語研究所(編)(2001~2008)『全国方言談話データベース 日本のおふるさとことば集成』国書刊行会
- 堤良一(2012)『現代日本語指示詞の総合的研究』ココ出版
- 松田正義・糸井寛一(1997)『方言生活 30 年の変容 上』桜楓社
- 松田正義・日高貢一郎(1997)『方言生活 30 年の変容 下』桜楓社
- 松田美香(2015)「大分と首都圏の依頼談話—大分方言の「アンタ」「オマエ」のフィラー的使用について—」『別府大学紀要』56
- 山本空(2014)「方言談話における二人称代名詞の談話機能」『日本方言研究会 第 99 回研究発表会発表原稿集』日本方言研究会
- 山本空(2015)「相生市方言における省略可能な対称詞とその出現条件」『千里山文学論集』94 関西大学大学院文学研究科
- 山本空(2016)「方言談話における対称詞の使用量の地域差」『国文学』100 関西大学国文学会
- 山本空(2021)『対称詞の談話機能に関する対照方言学的研究』関西大学博士論文  
日本語諸方言コーパス「COJADS」<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cojads/search>  
データバージョン 2019.05

---

<sup>3</sup> 当時 80 代前半の男性と、70 代後半の女性各 1 名ずつに実施した。

<sup>4</sup> 2015~2016 年にかけて、50 代後半~80 代前半の男女計 7 名に実施した。